

16年度シンポジウムのご案内

1 テーマ

「熊本地震をみて首都直下地震への備えを考える」

2 概要

熊本地震について、事前の備え、被害の状況、復旧復興への道筋について、熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター所長の松田泰治教授から報告を聞く。教授は、土木学会西部支部が組織した「熊本地震災害緊急調査団」の団長を務めている。

パネルディスカッションでは、り・らいふ研究会の中林一樹理事長（明治大学政治経済学研究科・危機管理研究センター特任教授）コーディネートにより、基調報告者に加えて、現に熊本の復興に取り組んでいるコンサルタント及び東京都都市整備局の理事にご参加いただき、首都直下地震への備え及び事前復興の取り組みを議論する。

今回は、多様な立場から防災やまちづくりに携わる一般参加者の体感としての発言を、いつにも増して多く期待したい。もって、多くの検討の場や現場で、近い将来発生の可能性が高いとされる首都直下地震への備えの資となることを願う。

3 開催日時

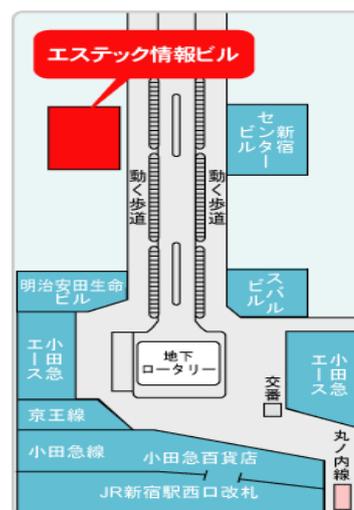
2016年12月10日（土）14:30～17:30

4 会場

旭化成ファミリーホール
（西新宿1-24-1 エステック情報ビル9F）

5 基調報告・パネリスト

基調報告 松田泰治熊本大学教授
コーディネーター 中林一樹り・らいふ研究会理事長
パネリスト 奥茂謙仁(株)市浦ハウジング&プランニング東京事務所副所長
佐藤伸朗東京都都市整備局理事



6 資料代

一般：1000円
会員・学生：500円
賛助会員（団体賛助会員の構成員を含む）：無料

7 参加申込み

参加を希望される方は、12月7日（水）までに、「り・らいふ研究会事務局」までにメールにてお申込みください。お申込みにあたっては、①氏名②所属③電話番号をご明記（様式自由）ください。

お問い合わせ、お申込みは、E-mail relife@relife.or.jp まで

プロフィール (敬称略)

松田泰治 (まつだ たいじ) 熊本大学大学院 先端科学研究部教授兼自然科学研究科附属減災型社会システム研究教育センター長 平成 28 年(2016 年)熊本地震 土木学会西部支部災害調査団団長

1983 年九州大学工学研究科土木工学専攻修了 工学博士

【専門分野】 都市防災, リスクマネジメント, 地震工学

【現在の研究テーマ】 現在の研究テーマ] 1) 社会基盤施設の実験及び解析的検討に基づく耐震設計の合理化 2) 社会基盤施設の耐震性能を考慮した減災システムの提案 3) 高性能材料の耐震設計への有効活用に関する研究 など

【最近の著書】 1. 熊本大学防災まちづくり研究会編 これからの防災を学ぶ人のための地域防災学入門 成文堂 共著 2010 年 3 月

2. 土木学会 地震工学委員会 免震・制震研究小委員会編 交通ネットワークを支える免震と制震の技術 丸善出版株式会社 共著 2012 年 6 月

中林一樹 (なかばやし いつき) 明治大学 政治経済学研究科・危機管理研究センター特任教授 首都大学東京名誉教授 工学博士 特定非営利活動法人り・らいふ研究会理事長 東京都立大学工学研究科 (建築学専攻) 退学後、同理学部地理学科助手、1976 年の酒田大火をきっかけに都市防災・復興研究を始める。理学部助教授を経て 1993 年都立大学都市研究センター教授、

【主な著書等】『巨大地震と大東京圏』(共著、日本評論社) 『大都市社会のリストラクチャリング』(共著、日本評論社) 『変容する高齢者像』(共編著、日本評論社) 『イスラム都市の変容』(共著、古今書院) 『安全と再生の都市づくり』(共著、学芸出版社) 『大都市と直下の地震』(共編著、都市研究所) >>詳細 【執筆論文】 1996 年～2001 年分 2002 年度分 社会貢献活動等

奥茂謙仁 (おくも けんじ) 株式会社市浦ハウジング&プランニング 常務取締役 東京事務所副所長 (一社)団地再生支援協会理事、東洋大学非常勤講師 一級建築士

東京理科大学修了

(株)市浦ハウジング&プランニング(1984 年～)において長年団地計画・設計、集合住宅設計業務に従事し、東日本大震災では岩手県内各地の災害公営住宅の計画、設計に携わる

佐藤伸朗 (さとう のぶお) 東京都都市整備局理事

東京大学工学部都市工学科卒 東京都職員として、旧住宅・都市整備公団、葛飾区、内閣府都市再生本部に出向し、国から基礎自治体、特殊法人等において政策立案から現場までの幅広い経験を持つ。東京都職員としては、知事本局政策担当課長、区画整理課長、政策担当部長、都市基盤部長を歴任し、都市の防災に強い関心を持っている。